

翠風園 ひかり通信

第8号



発行月： 平成23年12月
制作・発行： 社会福祉法人 正瑛会
デイサービスセンター翠風園
ヘルパーステーション翠風園
グループホーム 翠風園
理事長 野水 清志

所在地： 〒950-1236
新潟市南区高井東2丁目13番33号
連絡先： 025-362-7600
ホームページ：<http://www.suifuen.jp/>



白鳥の飛来
～白根にて～

ご挨拶

デイサービスセンター
生活相談員 沼田 武



今年も押し迫り、皆様とりわけご多忙の事と拝察いたします。常日頃の皆様の温かいご支援に心から感謝申し上げます。当園には、職員教育を担当されている理事の方がおられます。職員としてのマナーはもちろん、一人の人間としての考え方やあゆみ方をご指導下さっております。その中で、もっとも私の心に響いている事の一つに「失敗から、どれだけのご感謝を見付けられるか」という考え方があります。それは、身の周りで起こる出来事には、全て明確な意味があり、起こるべくして起こった事で、その意味をしっかりと掴みきって初めてその出来事を消化した事になるそうです。「どうしてそれが起こったのか?」「自分に足りない何を伝えようとしているのか?」など、感謝に繋げる要因を見付け出し、失敗を有り難いものとして捉える価値転換をしていくうちに、ただ落ち込むだけでなく、前を向いて歩き始める事ができます。私も数々の失敗をしました。ただただ自分の不注意さを悔み、落ち込むだけの日々でした。しかし、ご指導通り見つめ直した時、怪我をさせた方への申し訳なきと同時に、利用者様の安全をお守りするという、強い思いが自分に欠如している事に気付く事ができ、感謝で一杯になりました。今でもその時の想いを生かした仕事ができるよう心掛けています。更に、物事はプラスとマイナスで成り立っており、良い事も悪い事も、均衡を保とうとバランス良く訪れるとも教えて戴いております。失敗を恐れるあまり、何もできずにいる後輩達に、自身の体験談として語り、失敗は成長する為に必要な過程であると伝える事が、経験者の役目であると確信しております。このように、介護の技術はもちろんの事ながら、様々な場面での気持ちの在り方も勉強させて戴けるのは、利用者様がいて下さるからこそ、改めて感謝申し上げます。これからも心を込めて翠風園を築いて参りたいと思っておりますので、今後とも、宜しくお願い申し上げます。

地球様の恩恵に 対する感謝祭

平成二十三年七月二十日から二十六日は
デイサービスセンターとグループホーム合同
で「地球様の恩恵に対する感謝祭」という行事
を執り行いました。

翠風園では三年前の「地球様への感謝祭」か
ら、お日様、お月様、お星様と同じように、
日頃私達が最も恩恵を戴いている地球にも様
を付けて、地球様とお呼びしています。

その行事以降、利用者様が「良い事を教えて
もらって有り難かった」と言ってお下さり、今で
は利用者様と職員で、地球様に感謝をする時間
を設けています。

そのような中、今年の三月十一日に東日本大
地震が起こり、職員の間から「今だからこそ、
地球様への感謝を改めて考えてみよう」と声が
あがり、この度は地球様の恩恵について考える
事と致しました。

今回は、行事担当である阿部裕子さんに感謝
祭について聞きました。



デイサービスセンター介護職員 阿部 裕子

今年、東日本大地震が起こり、私達はとても多くの事を考えさせられました。この地震により影響を受けられた方が多くおられました。私達はこのような事態に直面した時、先ず地震や津波の影響を受けた方々の事は何とかしたいという思いが湧いて来ます。又、「どうして津波なんか」と自然を恨み、やり場のない思いや悲しみを地球様に向けていました。

しかし、日常の生活を考えてみますと、とても多くの恩恵を地球様から戴いていると感じます。日頃、翠風園ではレクリエーションの前に利用者様と一緒に地球様へ感謝の想いを送っているにも関わらず、何かがあると直ぐに感謝を忘れてしまう姿から、本当の感謝がまだまだ足りないと思致しました。

日々私達を育んで下さる地球様の立場に立って考え、人間本位の偏った思考の価値転換をしていかなければならないと思えます。

そこで「地球様の恩恵に対する感謝祭」では、感謝の想いを短冊に込め、地球様に捧げる事と致しました。

利用者様も私達の想いを確りと受け止めて下さり、素晴らしい感謝の御言葉を披露下さいました。人生の大先輩である利用者様のお言葉の一つひとつには、地球様への深い感謝の想いが溢れており、私達職員も深い感動を戴きました。



次に、デイサービスセンター翠風園の利用者様が考えられた、地球様の恩恵に対する感謝のお言葉をご紹介したいと思います。地球様皆様の感謝の深さ、想いの深さに感動致します。

今まで考えていなかったけれど、水でも風でも何でも地球様のお蔭です。雨が降るのも、日の照る日があるのもお蔭様です。翠風園に来て、漸く地球様に感謝出来る気持ちになりました。この年になって気付かせてもらった事に感謝です。

F様

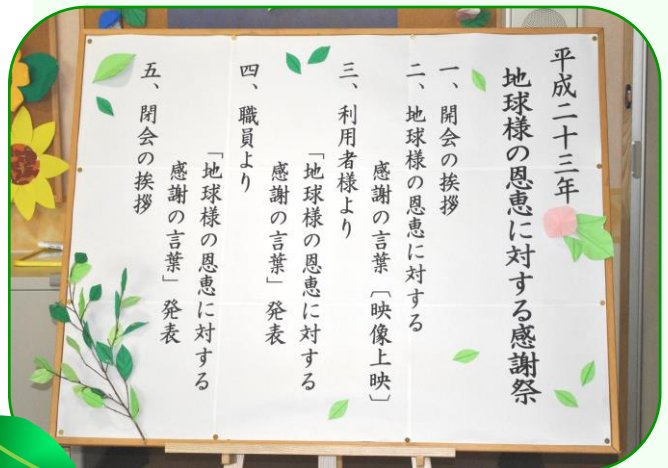
この震災で地球は生きていますと感じました。私達もこの地球上で生かされていると今回つくづく感じました。生かして戴いて感謝します。K様

自分ひとりでは地球様の事を詳しく考えようなんて思いもしませんでした。今迄は、有り難いという想いがあったても、言葉にする事もありませんでした。水や空気など作るのには、容易ではないでしょう。有り難うございます。

T様

丸い地球に山川あり、草木も元気に春夏秋冬を越し、一年。地球様には感謝します。地球様は私達の命の愛ですね。感謝します。

I様



平成二十三年
地球様の恩恵に対する感謝祭

一、開会の挨拶

二、地球様の恩恵に対する

感謝の言葉〔映像上映〕

三、利用者様より

「地球様の恩恵に対する

感謝の言葉」発表

四、職員より

「地球様の恩恵に対する

感謝の言葉」発表

五、閉会の挨拶



次に、グループホーム翠風園の入居者様が考えられた、地球様の恩恵に対する感謝のお言葉をご紹介したいと思います。

偉大なる地球様の大きな愛の中で、「生かしていただき、有り難うございます」

K様

地球様の恩恵に感謝し、少しでも恩が返せる人間になりたいと思いました。

Y様

翠風園で地球様に感謝を送っています。その度に自然と涙が出てきます。

O様

毎日、お日様にあたり、大地を踏みしめ、日々風を感じています。地球様に感謝して暮らしています。

A様

入居者様の「少しでも恩が返せる人間になりたい」というお言葉に、とても胸打たれました。感謝祭当日、発表の際には「そうしなければ、人へ人にはなれませんよね」と付け加えられた一言にも更に感激し、私達職員も人生の大先輩の素晴らしい生き方を見習わせて戴きたいと思っています。



地球様の恩恵に 対する感謝の言葉

この度の大地震で、たくさんの方々の悲しみ、痛みを、何度もテレビ・新聞・ラジオ等で知らされる度に、胸の詰まる思いでいました。

そして日が経つにつれ、この地震の意味を考えるようになりました。

なぜこの地震は起きたのだろう。

これ程の悲しみ、苦しみ、痛みを受ける意味は何なのだろう。テレビで様々な方達が色々お話しされているのを聞いてみると、心に留まったものがありました。

「地球が悲鳴をあげたのだ！」

人が物理的に豊かな生活を求め

利益を追求するあまり

使っていないエネルギーを使った

そして電気を大量に使う企業も、

それを見て見ぬふりをした上に

加担したのだ

メディアも気付いていても、それには触れない触れようとする者が現れれば、排除された

そして電気の消費を拡大させていった

という事でした。

グループホーム介護職員 小林 令子

この事で地震が起きた訳ではないけれど、全てが大自然との共生のバランスを破壊した、人間の傲慢さに結びつくように思えます。

今まで、家族を守るために一生懸命働き、子供の寝顔しか見たことが無かったお父さんたち。

しかし、この地震で人は気付いたのです。気付かされたのです。本当は何が大切なのかを。

企業戦士として生きるだけでなく、家族と食事を共にして会話し、子供の成長を感じながら、一番足元の家族との絆をきちんと築いていくこと。

そして自然を慈しみ愛し、それを感謝し正しく使わせていただく。この事が人としての幸せなのだ。

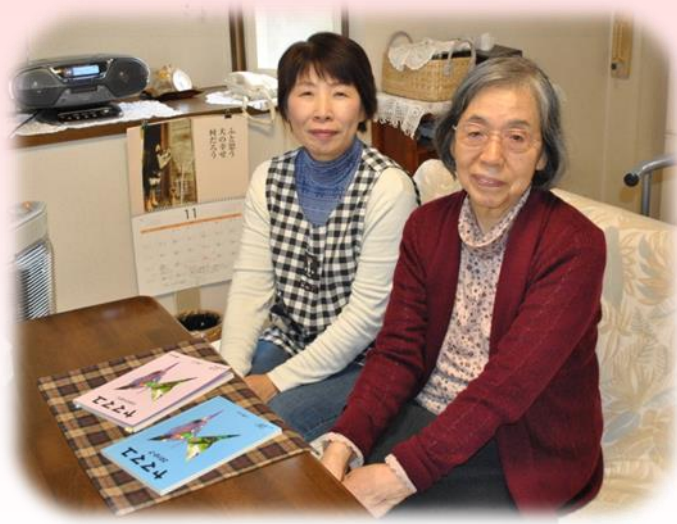
地球様はその為の軌道修正をして下さったのではないかと考えるのです。そして今苦しんでいる東北の方々と、「想いを共に生きる」事が、私に出来ることではないかと思うのです。

多くの方達が今、広い海に抱かれ眠られている事を思い、手を合わせたいと思います。



ヘルパー ステーション

文 訪問介護職員 眞保 マサ子



右側は少作富枝様
左側は眞保さん

少作富枝様は、平成二十年二月に右手首の関節炎のため手術、その後さらに左肩の腱の手術、ついで左膝と手術が続きました。その後より生活の中で様々な困難が生じ、ヘルパーが訪問する事になったのです。それであちこちの不都合と付き合いながら、月一、二回の短歌の会の講師をされています。

この様な状況の中でも、生き生きと楽しく日々を過ごしていらっしゃる少作様のお姿は、ヘルパーの私達にとって、とても魅力的に感じられます。そこには、短歌を通して、ご自分の生きる道を見い出した熱い想いがありました。

今回は、愛して止まない短歌への想いをお聴きする事が出来ましたので、ここに掲載させて戴きます。

「私の生きる道」

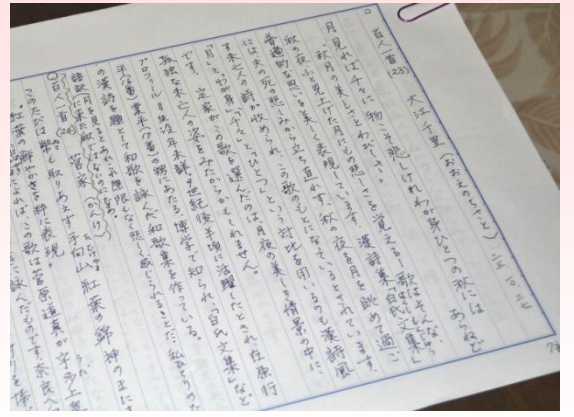
「私が女学校に通っていた頃は、戦争の最中でした。当時は好きな本も読めず、勉強したくても出来ない時代でした。〈学びたい〉というハングリー精神が養われたのも、その頃からかも知れませんか。

だから、結婚後は主人の転勤先で行くところ、行くところで市民文学講座を受けたりして、自分なりに勉強を続けていました。

富山にいた時、新聞に掲載されていたある先生の短歌に感銘を受け、『何とか、この先生に習えないだろうか』と一大決心をして、その先生の門を叩いたんです。それから先生のご指導の許、短歌の道に入りました。

次の勤務先の大阪では、著名な歌人の前登志夫氏の講座のあるカルチャーセンターに四年間通っているうちに、先生の『ヤママユ』に入会を勧められて入り、次は東京へ…。

しかし、二十年前に新潟に住みついてからは、周囲に短歌教室や他の講座も分からず、孫の世話に明け暮れていました。今から八年前、孫が短歌の講師のチラシを持って来て、私に勧めてくれた事が切っ掛けとなり、今は亡き主人が背中を押してくれた事で、人生の大転機が訪れました」



(右) 講座の教材や短歌の添削を、毎回自筆で書かれているそうです。

(左) お部屋には、お兄様より贈られた書物が沢山並んでいました。



と、お話しして下さいました。
最初は、人様に教えることなど、とても無理だと躊躇されていたそうですが、今では生き甲斐となっていていらっしやいます。そこには、人と人を繋いでくれる短歌の素晴らしい世界がありました。

「短歌と出会い、短歌を通して、色々な方々と出会えて、とても幸せです。私より目上の方もいらっしやいます。様々な年代の方がいらっしやいます。

私にとって短歌は、私の狭かった社会の扉を開かせてくれたのです。そのお蔭で、自分ひとりでは得られなかった喜びを感じています。

短歌は、上っ面の言葉を述べても想いは伝わりませんし、自分の目や心で感じたものを正直にさらけ出さなければ、歌にはなりません。

皆さんの想いをまず受け止め、その想いに寄り添い、私が感じた事をお伝えさせて戴いています。そうしている事で、教えるのではなく自分の人生の勉強をさせて戴いていると思える様になりました。

短歌は、人と人を繋いでくれる素晴らしいもの。

私は『生きていく』と実感しています」

と、以上のようにお話しして下さいました。私は少作様の話をお聴きして、自分の生きる道は、幾つになろうと、どの様な状況であろうとも、自らの情熱の中から生まれてくるものだと思致しました。

若い頃からひたむきに学び続けて来られた少作様の想いが、講師へと導いて行かれたのだと思うと、深い感慨を覚えます。

雪ふかく人遠ざけて浜はいま射しそむる陽にきよくあか明れる

* 浜辺で作られた、少作様の冬の短歌です。

事務職員紹介



～事務職員の4名です～

堀川倫子 高桑容子
山口喜久子 酒井義喜



毎朝、事務職員が国道花壇の手入れをしている風景です。
身なりもかなり気合が入っています！

いつも皆で楽しく
協力している事務員さん達です

私達は、デイサービスセンター・ヘルパーステーション・グループホーム各事業所の事務を四名でさせて戴いております。

私達は翠風園の窓口として、お客様や関係する皆様に対して、誠意をもって丁寧な対応をする事を心掛けています。

そして、職員の皆さんが仕事をスムーズに行えるように、様々な所に目を配り、気を配り、心を配る事を事務員共通の目標としております。

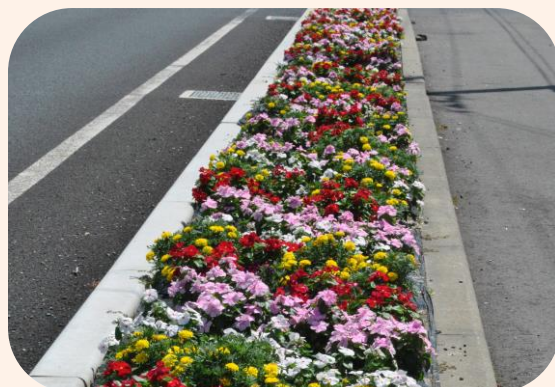
また、事務の仕事の他に、利用者様やお客様に喜んで戴ける様、園の敷地内及び国道花壇の手入れにも力を入れていきます。

ある利用者様のご家族から、「いつも綺麗にお花を咲かせている職員が働いている所なら、安心して家族をお願い出来ます」とお言葉を頂戴したり、他にも、「綺麗なお花を咲かせている通勤されるお客様からは、「綺麗なお花を咲かせている翠風園さんの前を通ると、元気を頂けます」等とお言葉を掛けて戴く事がありました。

そのような嬉しいお言葉をお聞きして、お花たちも翠風園の大切なスタッフの一員なのだと思付く事が出来、益々力を合わせ楽しくお花の手入れに勤しみたいと思っております。

そして、日々成長し綺麗に咲いた翠風園の花々のように、私達も仕事を通して成長し合い、お越し下さる皆様を明るく元氣にお出迎えて参りたいと思っております。

これからも宜しくお願い致します。



この度、国土交通省の新潟国道事務所様より感謝状を戴きました！
これからは新潟国道事務所様のご協力の元、地域の活性化に繋がるよう努めて参りたいと思っております。